

# フランス国立高等研究院東アジア文明 研究センター訪問記

王 鶴

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



私の博士論文のテーマは、近代の日本海軍軍政史及び日清海戦史である。中日両国の近代海軍の発展は、1860年代からほぼ同時に始まった。この時代には、英仏など列強の極東への拡張活動は中日の海軍建設に大きい影響を与える。特に1860～1890年代には、フランスが重要な役割を演じる。その時期の中日の海軍史研究にとって、フランスの影響は少なからずあると思う



写真1 オテル・デ・ザンヴァリッド広場に並んでいる中世、近世の青銅砲

が、いまの中国史学界や、日本史学界は、フランス側の史料の利用は依然として十分ではないと考える。日仏、中仏の海軍技術提携に関する研究を進めるためには、フランス史料の利用は必要不可欠なことだと思う。

この問題を抱えながら博士論文を進めるために、2016年4月21日～5月10日の21日間、私は神奈川大学非文字資料研究センターの若手研究者として、フランス国立高等研究院の東アジア文明研究センターを訪問し、3週間の調査、学術交流の活動を行った。今回の主な調査活動はフランス外務省、海軍省資料館所蔵の史料の状況を探ること。その他、パリ市、ブレスト市のフ



写真2 近代フランス軍港を示す油絵 (シャイヨにフランス国立航海博物館)

ランス国立の海洋、海軍博物館を見学することである。

4月21日、フランス時間午後6時に、私はシャルルド・ゴール空港から、RER Bという市内電車に乗り、

80分かけて、自分の宿泊先のある、有名な国際大学都市 (Cité universitaire de Paris) に到着した。翌日、計画に従い、今回の活動は派遣機関を訪問することから始まった。東アジア文明研究センターは、フランス屈指の極東の歴史と文化を専門に研究する学院であり、



写真4 19世紀のフランス海軍の全金属潜水服 (シャイヨにフランス国立航海博物館)

附属の図書館には中国、日本、インドの言葉、歴史、民俗、文化に関する膨大な資料を蔵する。フランスの連

休の影響で、その日は図書館の登録手続を申請するだけで終わってしまった。

5月2日には、院長の Nicolas FIEVE 先生にお会いした。先生は、日仏軍事交流史の研究に関する著書をくださった。その前に、資料調査が順調に進むようにと、東アジア文明研究センターを通じて、FIEVE 先生から訪問予定の資料館にあてる紹介状もくださった。東アジア文明研究センターが2名のチューター、博士課程の留学生であるイギリス人のアーリスさんと中国人の鐘量さん



写真3 船のフィギュアヘッド (シャイヨにフランス国立航海博物館)

をいただき、調査活動が順調に展開した。

文字資料を探す仕事が5月1日から始まった。最初の目的地はパリ市内のヴァンセンヌ (Vincennes) に



あるフランス国防省海軍歴史資料部である。計画にのっ  
とって、今回申請した複写の資料とその目次番号は以下：

- 1、BB4 1382 『フランス駐清国大使館の武官より、福  
州船政局に関する報告』
- 2、BB4 1555 17/5/2 『福州船政のフランス人雇用者  
との契約書』
- 3、BB4 1555 17/5/5 フランス技術大監の雇用契約書
- 4、BB4 1555 17/5/54 福州船政局についての機密日記
- 5、BB4 1555 17 福州についてのファイル、フランス  
人雇員とフランス艦隊及び海軍省の間の往復通信
- 6、CC7 1020 お雇いフランス人技師、Giguelの人事  
書類
- 7、CC7 1850 お雇いフランス人技師、d' Aigwebelle  
の人事書類
- 8、CC7 2728 お雇いフランス人技師、De Segonzac  
の人事書類

以上の諸  
資料には、  
横須賀製鉄  
所、福州造  
船廠の創建  
経緯とフラ  
ンス政府、  
軍部の介入  
の過程が詳  
しく記録さ



写真5 プレスト駅に18世紀のプレスト軍港及び要塞を示す油絵

れており、今後の研究に必ず役立つものと考えられる。

文書資料だけではなく、海軍に関する写真、模型、  
実物、油絵などの非文字資料の調査も今回の目的の一  
つである。これら模型、文物及び芸術品は、海軍の歴史  
を物語、造船技術の情報を示す、大切な資料だと思う。

パリのシャ  
イヨ及び大  
西洋沿岸の  
軍港都市ブ  
レストには、  
フランス  
で最も有名  
な海軍



博物館が、  
またセーヌ川のアレキサンダー3世橋の南岸にあるオ  
テル・デ・ザンヴァリッド (L'hôtel des Invalides)  
にも有名な軍事博物館がある。

前述の  
博物館に、  
大量の中  
世、近現代  
のフランス  
海軍に関  
する展示  
品が並ん  
でいた(油  
絵、模型、



写真7 甲鉄艦時代の巡洋艦の模型 (プレスト海軍博物館)

船首像 (Figurehead) 等を含む)。中世以降のフラ  
ンス海軍の植民地活動、海軍の歴史及び文化の姿をは  
っきりと示している。館中の艦船模型は、各時期のフ  
ランス軍艦の技術特徴を明確に表している。展示され  
た美術品、模型、木彫 (石彫も含む)、武器に接し、  
フランス海軍の歴史と文化に対する認識と理解が、よ  
り一層深  
くなった。

今回の調  
査研究では、  
重要な研究  
資料を数多  
く収集した  
だけではなく、  
海外と  
の交流とい



写真8 ヘリー黒船と同じ時代の蒸気外輪フリゲートの模型 (シャイヨにフランス国立航海博物館)

う貴重な経験が得られ、ところどころ異国文化を感じる  
ことができ、実に愉快的な研究体験であった。最後になる  
が、フランス国立高等研究院東アジア文明研究センター  
の方々のご助力により、順調な調査ができ、研究準備と  
渡航等の手続きにおいては、森先生、内田先生、事務室  
の成田さんから、様々なご指導と援助をいただき、心か  
ら感謝の意を申し上げます。